



金沢工業大学

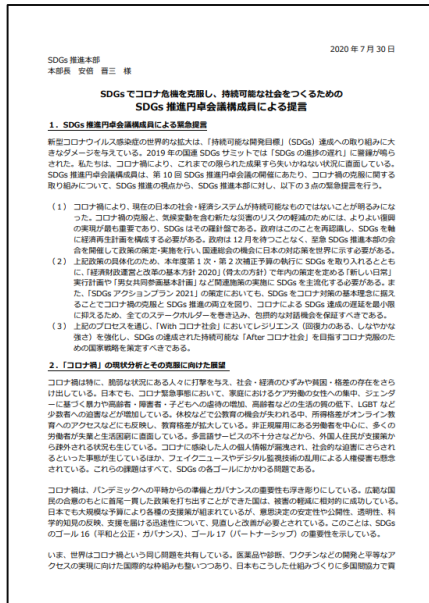
# コロナ禍におけるSDGs先進企業・団体の意識と 取り組みに関するレポート

ジャパンSDGsアワードアルムナイネットワーク事務局  
事務局代表 平本督太郎（金沢工業大学）

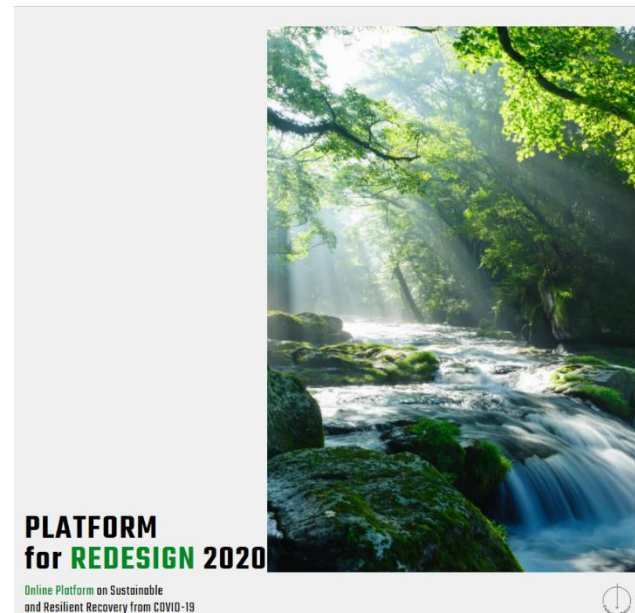
# ジャパンSDGsアワード受賞組織のコロナ禍における意識や行動を明らかにすることで、with/afterコロナにおいて様々な組織によるSDGsの推進が現状打破に有効であることを示すため、アンケートを実施した。

- 2020年7月30日には、SDGs推進円卓会議構成員によって、日本政府SDGs推進本部に対して、SDGsでコロナ危機を克服し、持続可能な社会をつくるための提言がなされた。
- また、環境省は、欧州を中心としたグリーンリカバリー等の国際行動を踏まえて、9月3日に気候危機、環境対策を見据えた新型コロナ禍からの復興を促進する国際連携プラットフォームを立ち上げた。
- こうした動きを受け、実際にSDGsに取り組んでいる組織は、新型コロナウイルス感染拡大のような変化にも強く、上記のような新たな動きに対応し始めていることを示すため、ジャパンSDGsアワード受賞組織の実態調査を行った。

## SDGs推進円卓会議構成員による提言



## 環境省によるPLATFORM for REDESIGN 2020



# アンケート概要

---

## アンケート対象：

ジャパンSDGsアワードアルムナイネットワーク（ジャパンSDGsアワード受賞組織の大多数の組織（37組織）が参画）

回答数：25

実施期間：2020年9月3日～9月30日（一次〆切9月16日、二次〆切9月30日）

## 回答条件：

組織としての回答ができない場合は、回答者個人の考えとして回答いただいても良いという条件でご回答いただきました

## 補足：

アンケートに加え、いくつかの組織には、追加のディスカッション等を行い、分析を深めた

# 主要なアンケート項目

---

1. 2020年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大の収束まで、今後どのくらいの期間がかかると見込まれていますか？
2. 新型コロナウイルス感染拡大が収束した後に、別のパンデミックが起こる可能性を組織の経営・運営に織り込んでいく必要があると思いますか？
3. 新型コロナウイルス感染拡大による損傷した経済の復興について、貴組織の考えとして最も近い選択肢を選んでください。
4. 新型コロナウイルス感染拡大は貴組織の運営にどのような影響を与えましたか？
5. 自組織の運営に関連して、新型コロナウイルス感染拡大に対する防止策として、特に力を入れた取り組みを最大3つ記載してください。なお、力を入れたかどうかの判断が難しい場合は、早期に取り組んだ順に記載ください。
6. 今回の新型コロナウイルス感染拡大に関連して貴組織と関係のある「取り残されてしまった人」について、貴組織で何か支援の取り組みをしていた場合、対象の方がどのような方なのか、どのような支援をされているのかについて教えてください。複数存在する場合は、特に力を入れた取り組みを最大3つ記載してください。なお、力を入れたかどうかの判断が難しい場合は、早期に取り組んだ順に記載ください。
7. 新型コロナウイルス感染拡大による生活環境・市場の変化によって、貴社が顧客や重要なステークホルダー（利害関係者）へ提供している価値そのもの、もしくは価値の解釈を見直しましたか？見直した場合は、どのように見直しましたか？
8. 顧客・ステークホルダーへの提供価値を見直した結果として、内容や実施方法を変更した事業・活動があれば、その変更内容について教えてください。
9. SDGsを推進していることで、新型コロナウイルス感染拡大下において役に立ったことがあれば教えてください。
10. 新型コロナウイルス感染拡大によって、今後より注力しなくなるとはならなくなったSDGsに関連する取り組みがあれば教えてください。
11. 新型コロナウイルス感染拡大収束までに、他組織とのパートナーシップを強く求めるSDGsに関連する取組があれば教えてください。
12. 新型コロナウイルス感染拡大収束後の社会において、他組織とのパートナーシップを強く求めるSDGsに関連する取組があれば教えてください。

## 調査結果の概要

**ジャパンSDGsアワードを受賞している組織は、中長期的な視野に立った組織運営を行っており、新型コロナウイルス感染拡大を期とした社会変革の推進に着目している。**

**新型コロナウイルス感染拡大の収束までの期間(見込み)**



2020年9月現在から1年以上かかるとする回答者が8割を占め、そのうち**2~3年**かかるとした回答者は**36%**

**今後の組織運営**



全ての回答者が新型コロナウイルス感染拡大とは**異なるパンデミックの可能性を組織の経営・運営に織り込んでいく**必要があると回答

**復興のあり方**

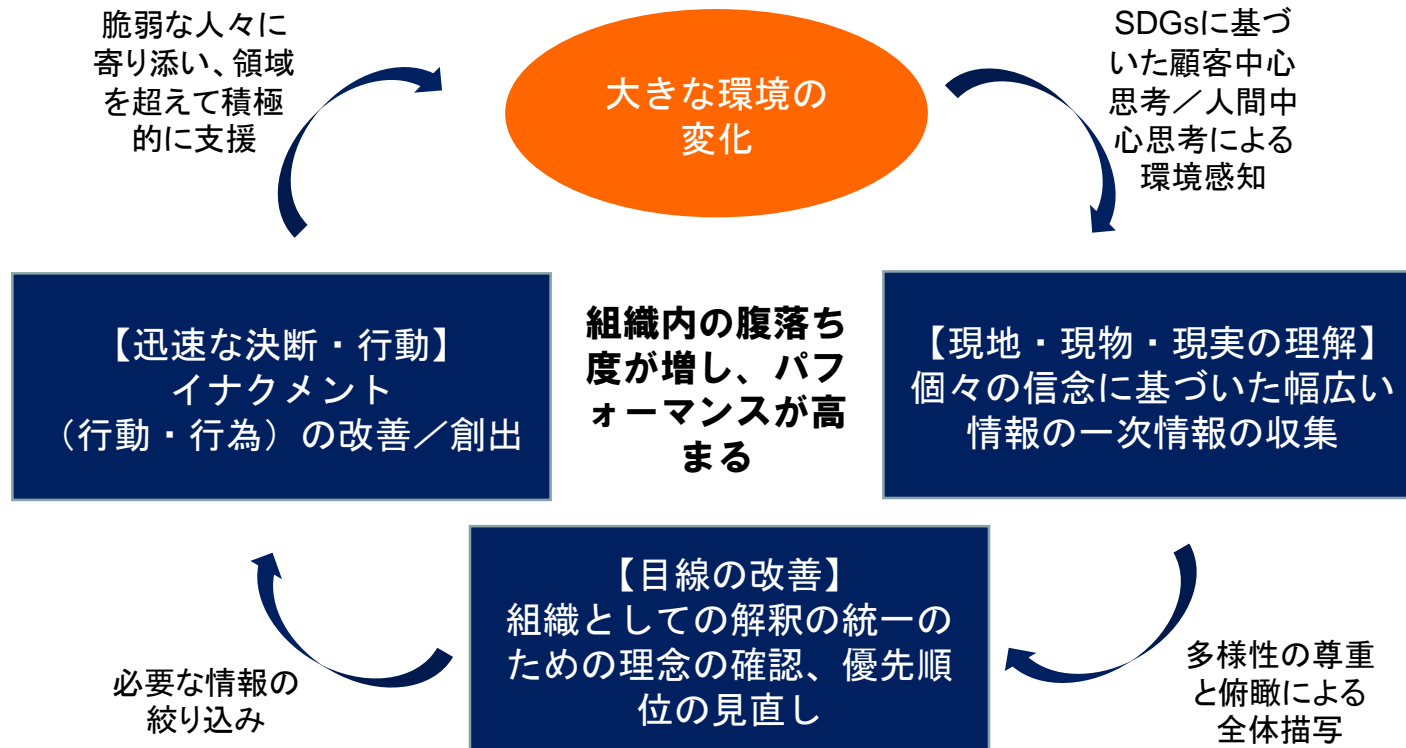


9割以上の回答者がパンデミックに強いだけでなく、**環境・社会に配慮した投資促進によるグリーンリカバリー**を望んでいる

# SDGsに本気で取り組んでできた組織では、変化にすぐに対応できる力を身に着けることが出来ているため、ニューノーマルにおける新たな行動様式においても、高い成果を上げることが出来ている。

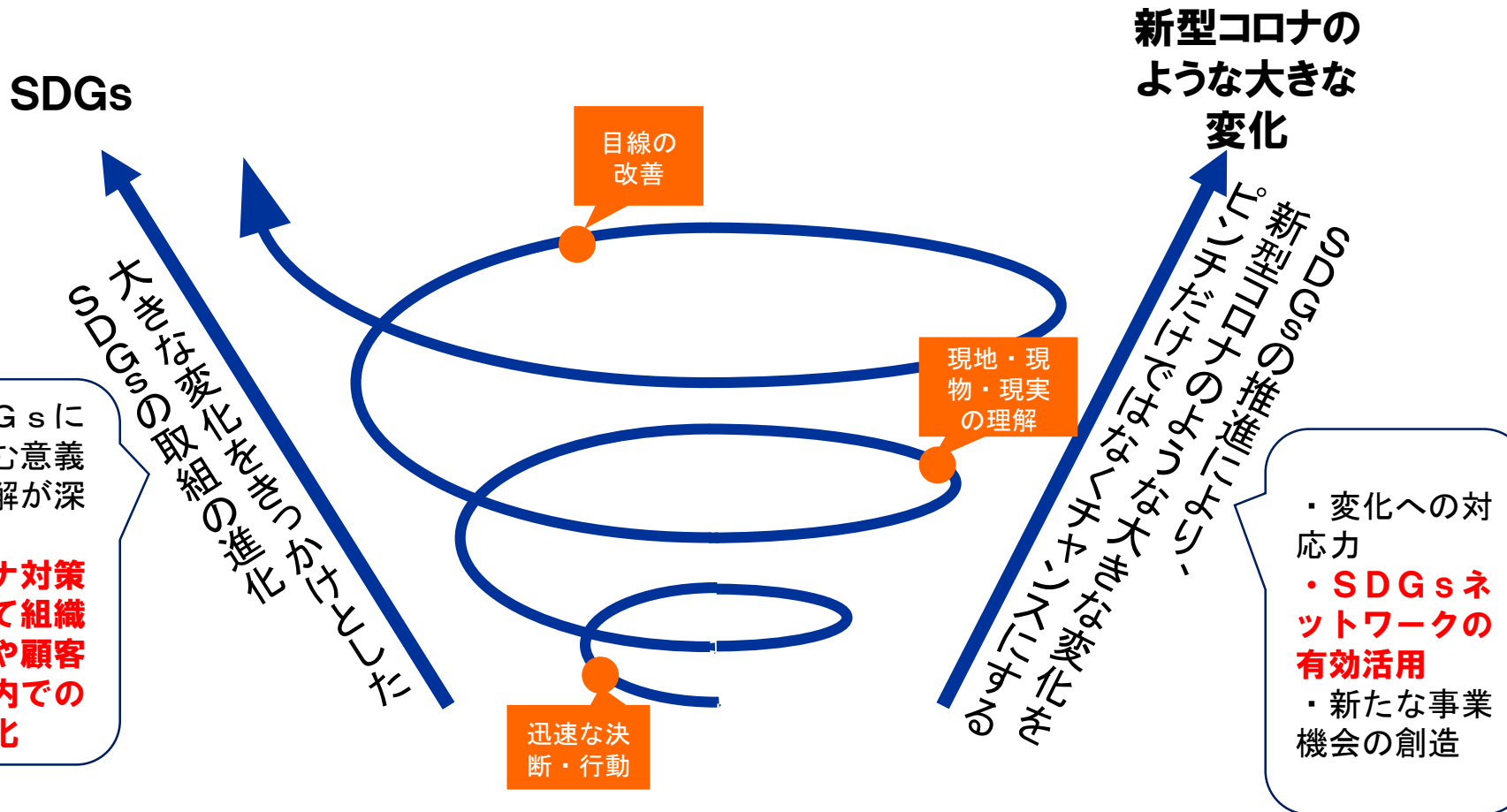
- 各組織が経営学におけるセンスメイキング理論に沿ったような活動をしていると推測される。
- すなわち、【迅速な決断・行動】により新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けやすいような脆弱な人々に寄り添い積極的に支援をした結果として、新たな社会における情報をいち早く収集・整理し【現地・現物・現実の理解】をし、それをもとに組織内の優先順位を見直し従業員・社員・職員の【目線の改善】を繰り返すことで、皆が自信をもってニューノーマルに適した行動をとり高い成果を上げられる状態を実現している。

## 変化に即応できる組織



SDGsの推進が新型コロナウイルス感染拡大のような大きな変化を乗り越えることに役立った一方で、新型コロナウイルス感染拡大に迅速に対応していくことが逆にSDGsに関する取り組みの更なる発展を促していることも明らかとなった。

- こうした継続的な組織・個人の進化は、SDGsに取り組む中で培われた組織内外の多様なネットワークによって支えられていると考えられる。



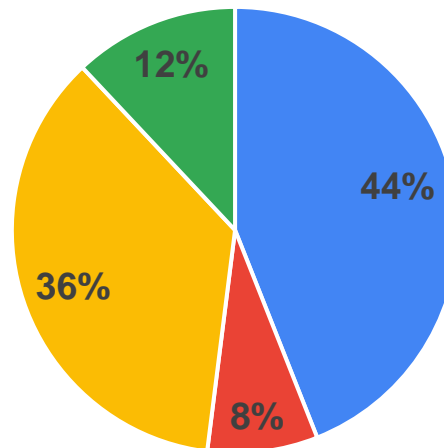


## アンケート結果の詳細

## Q1 : 2020年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大の収束まで、今後どのくらいの期間がかかると見込まれていますか？

- 回答者のうち、新型コロナウイルス感染拡大の収束までかかる期間については、2020年9月現在から1年以上かかるとする回答者が8割を占め、そのうち2～3年かかるとした回答者は36%に達する。
- そのため、SDGsに本気で取り組んでいる組織では、早期の収束を前提としない組織運営がなされていると考えられる。

2020年9月現在、新型コロナウイルス感染拡大の収束まで、今後どのくらいの期間がかかると見込まれていますか？

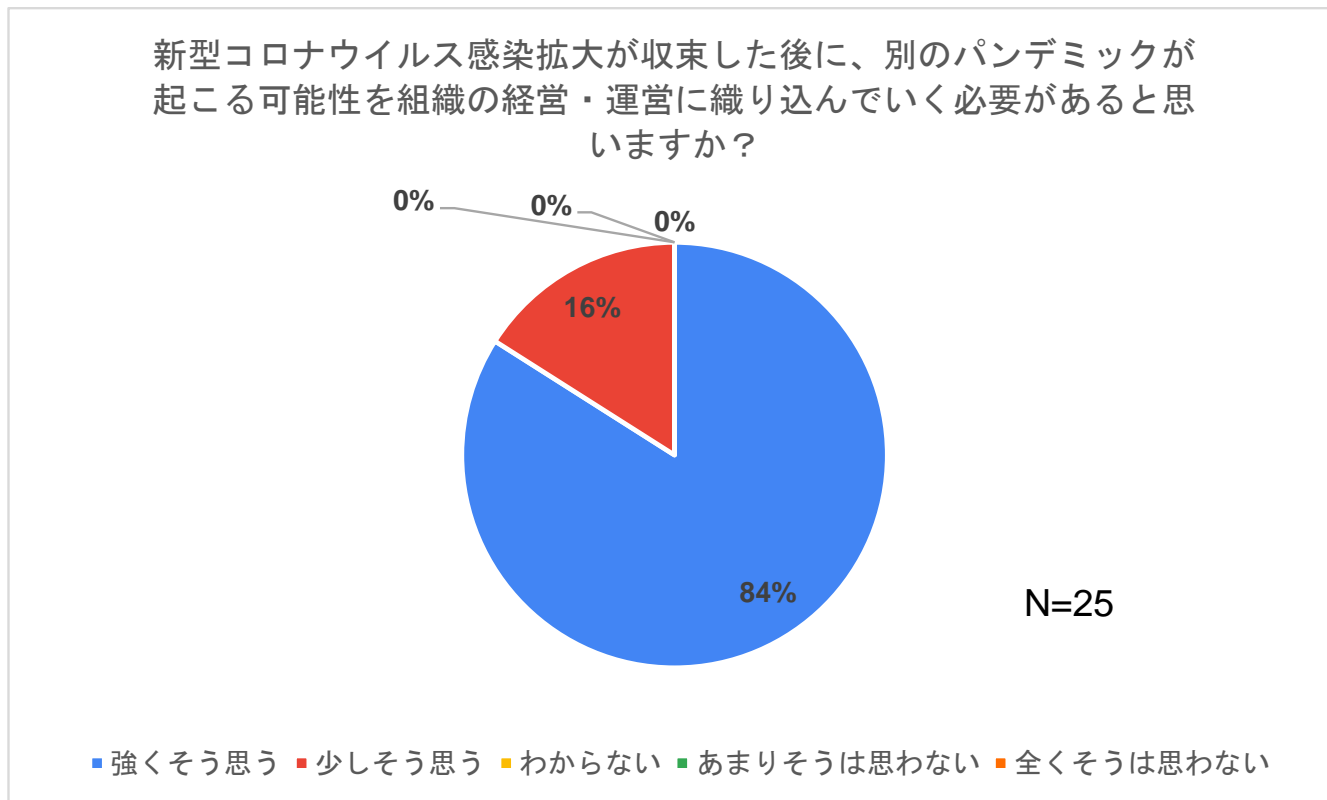


N=25

- 1年以上、2年以内に収束する
- 収束まで2～3年はかかる
- わからない
- 半年以上、1年以内に収束する

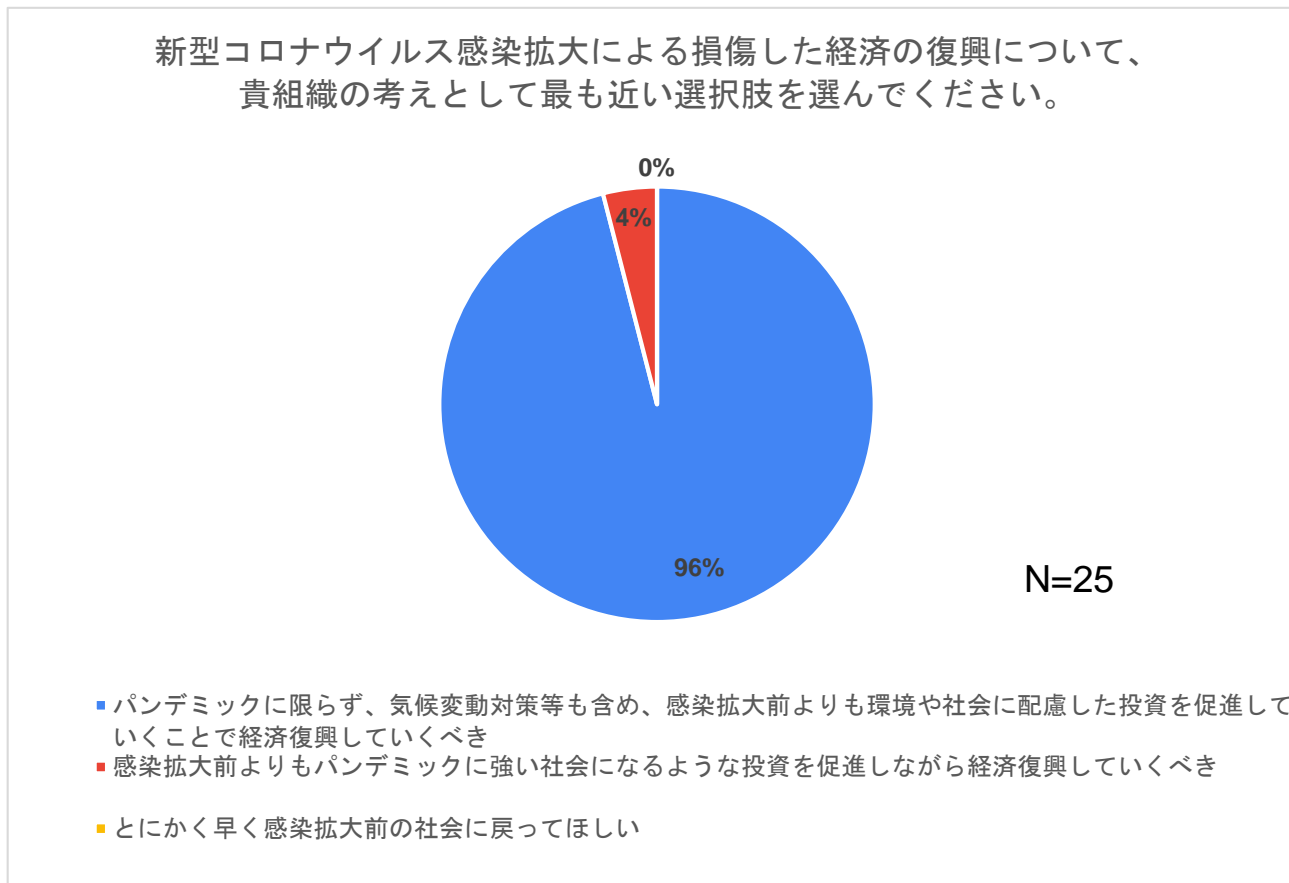
## Q2：新型コロナウイルス感染拡大が収束した後に、別のパンデミックが起こる可能性を組織の経営・運営に織り込んでいく必要があると思いますか？

- 全ての回答者が、今後新型コロナウイルス感染拡大とは異なるパンデミックの可能性を組織の経営・運営に織り込んでいく必要があると考えている。
- 今後は、次のパンデミックが起きることを想定し、実際に起きた際に、リスクを最小限に抑え、チャンスを最大限に生かすために、変化に強い経営・運営をどのように確立させていくのかがSDGs推進企業には求められていくと考えられる。



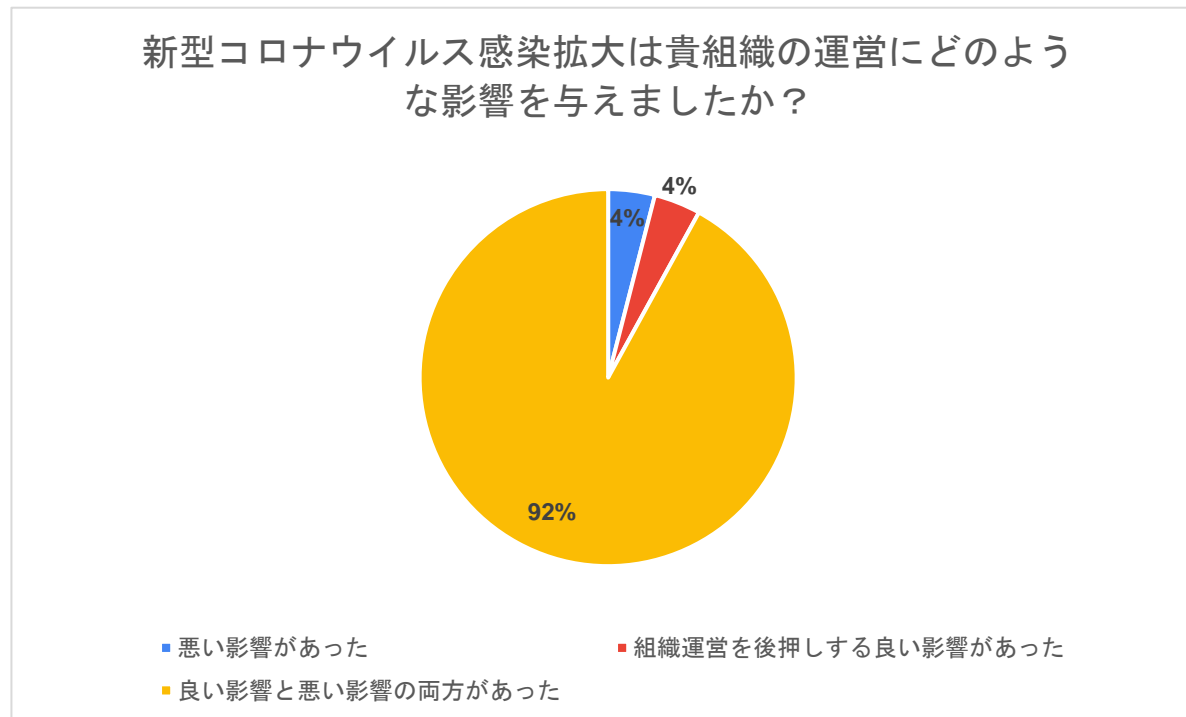
### Q3：新型コロナウイルス感染拡大による損傷した経済の復興について、貴組織の考えとして最も近い選択肢を選んでください。

- 回答者のうち、「とにかく早く感染拡大前の社会に戻ってほしい」と回答した回答者はいなかった。そして、9割以上の回答者がパンデミックに強いだけでなく、環境・社会に配慮した投資促進によるグリーンリカバリーを望んでいる。



## Q4：新型コロナウイルス感染拡大は貴組織の運営にどのような影響を与えましたか？

- 回答者の9割以上が、新型コロナウイルス感染拡大に対して、良い影響と悪い影響の両方があったと回答している。
- SDGsを推進している組織においては、新型コロナウイルス感染拡大のような大きな変化に対して受け身にならず、良い影響を生み出すために変化を生かすための創意工夫を行い、結果を出していることが読み取れる。



**Q5：自組織の運営に関連して、新型コロナウイルス感染拡大に対する防止策として、特に力を入れた取り組みを最大3つ記載してください。なお、力を入れたかどうかの判断が難しい場合は、早期に取り組んだ順に記載ください。**

- ジャパンSDGsアワード受賞組織が行った主要な新型コロナウイルス感染拡大に対する防止策は様々あるが、複数組織で共通している取り組みとしては、「感染対策」、「コロナ禍における運営継続のための取り組み」、「だれ一人取り残さないための支援活動」の3種類があげられる。

### 複数組織で共通している取り組み(注:各組織で実施している感染対策の一部となります)

#### 【感染対策】

- ・ 組織内の感染防止／ガイドライン／マニュアルの作成
- ・ 会議等のオンライン化／テレワーク推進
- ・ 妊婦や小学生以下の子を持つ従業員等に対する特別な休暇の設定
- ・ イベント等の自粛
- ・ 顧客に対するICT活用等による非接触での価値提供手法の確立

#### 【コロナ禍における運営継続のための取り組み】

- ・ 助成金／融資／給付金関連の取り組み
- ・ サービス／商品提供の継続的な提供のための取り組み／収束後に備えた商品の保管等
- ・ 活動を維持／発展させるための新たなネットワークの確立

#### 【だれ一人取り残さないための支援活動】

- ・ ステークホルダーに対する経済的な支援
- ・ 新型コロナウイルスの影響を大きく受けた社会的立場の弱いステークホルダーに対する緊急支援活動の立ち上げ、緊急支援体制の構築
- ・ 新型コロナウイルスによって拡大した新たな社会課題に対する新たなプログラム／製品の開発

**Q6** : 今回の新型コロナウイルス感染拡大に関連して貴組織と関係のある「取り残されてしまった人」について、貴組織で何か支援の取り組みをしていた場合、対象の方がどのような方なのか、どのような支援をされているのかについて教えてください。複数存在する場合は、特に力を入れた取り組みを最大3つ記載してください。なお、力を入れたかどうかの判断が難しい場合は、早期に取り組んだ順に記載ください。

- ジャパンSDGsアワード受賞組織においては、自組織内での対策のみならず、社会的に脆弱な立場に置かれた人々への支援活動を行っている組織が多い。
- このように人々に寄り添った活動をすることで、コロナ禍における社会の変化に対して深く理解をし、それを変化への対応に生かしている組織も多いと考えられる。

### 「取り残されてしまった人」への支援の対象者の例

(注:各組織で支援している対象者の一部となります)

- ・ 幼児小中高生含めた若者（休校中、外出自粛中の親子など）
- ・ 妊産婦や小学生以下の子を持つ従業員
- ・ 生活困窮者（給食を食べる機会を失った子ども、孤立感・不安等により精神的に不安定になってしまった人々、豪雨災害を含む被災地の住民の方々、生活苦を強いられたり帰省できなくなった学生等を含む）
- ・ 困難な状況のこどもたちを支える団体
- ・ 飲食店・宿泊施設をはじめとする地域の商業施設
- ・ アフリカのシングルマザーやHIV陽性の家庭
- ・ 開発途上国で活動する医療従事者
- ・ 開発途上国の貧困地域に暮らす女性・若者（手洗いの環境が整っていない人々を含む）
- ・ 感染に恐怖を感じる生活者
- ・ 出張ができない取引先
- ・ 犯罪履歴のある人
- ・ 外出機会が減った家庭
- ・ 公共交通機関しか移動の手段がない方々
- ・ 外出自粛高齢者単身世帯や障がい者世帯
- ・ 販売先・機会が減少した生産者（農業・酪農など）

### 「取り残されてしまった人」への支援内容の例

(注:各組織で支援している対象者の一部となります)

- ・ 感染対策に対する正しい情報の提供
- ・ コロナ禍で運営が困難となった活動・事業に対する運営支援（コロナ禍でも実施できる活動・事業の立ち上げ支援やクラウドファンディング・投融資・補助金等の金銭的な支援）
- ・ パンデミックや災害等の緊急事態時においても活動を継続できるようにするための組織改善支援
- ・ 手洗い施設の設置やそれに代替する製品の提供
- ・ 自粛中の子どもと通学／通園している子どもの間での写真のやり取り等を通じた絆づくり
- ・ ウェブコンテンツ／レシピ本提供等を通じた増加した家庭での料理の負担削減支援
- ・ 生活に必要な食料／特産品／募金で集めた寄付金／商品券等の提供（フードバンク・子ども食堂を含む）
- ・ 生活健康相談／心のケア／安否確認／児童虐待／DV防止体制強化
- ・ 自宅での学習を支援する教材等の提供
- ・ 就労支援（観光業等に従事し、職を失った人々に対する優先的な雇用を含む）
- ・ 送迎等の移動支援

## Q7：新型コロナウイルス感染拡大による生活環境・市場の変化によって、貴社が顧客や重要なステークホルダー（利害関係者）へ提供しているの価値そのもの、もしくは価値の解釈を見直しましたか？見直した場合は、どのように見直しましたか？

- 価値提供については、価値の見直し・再確認を多くの組織が取り組んでいる。

価値やその解釈の見直し	取り組み概要
見直した	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で活動の形態や優先度が変わる中で、価値を再定義し、オンラインでの提供も含め価値の提供方法も見直した。</li> <li>・活動の前提となる大きな方向性を見直しを行った。</li> <li>・これまで取り組んできた課題のみではなく、総合的な課題解決ができるよう見直した。</li> <li>・災害時の地域における市民支援拠点としての観点から価値を見直した。<small>組織の存在意義の見直し</small></li> <li>・リアルで集まれない中で、リアルで集まる価値について考えるきっかけとした。<small>活動の意義の見直し</small></li> </ul>
再確認した	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の在り方を再確認した。<small>組織活動全般に対する優先順位や活動の改善</small></li> <li>・提供価値は変わらないが、活動の優先順位が大きく変わった。</li> <li>・提供価値は変わらないが、コロナの状況次第で、ステークホルダーのニーズが日々変わるため、行動や意見に柔軟に対応することを重視している</li> <li>・だれ一人取り残さないを再確認し、「Build Back Better」の考えによって活動を改善している</li> <li>・コロナ後の社会にどのように適応していくべきか検討中である</li> <li>・社会の変化によって生まれた新たなニーズに対応できるように活動を改善している</li> <li>・顧客の多様化に向け、新たな顧客に対する価値提供の手法を確立した <small>顧客との接し方の変化</small></li> <li>・取引先に対する利益貢献をより重視するようになった <small>取引先・組織内との接し方の変化</small></li> <li>・価値を再確認する中で、今後の組織内のコミュニケーションの在り方について検討している</li> </ul>
見直す必要がなかった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元々、感染症対策が内包されていたため、見直しの必要がなかった</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンデミックに対する安全性の重視、三密回避等の新たな価値提供を行った</li> </ul>



## Q8：顧客・ステークホルダーへの提供価値を見直した結果として、内容や実施方法を変更した事業・活動があれば、その変更内容について教えてください。

- 事業・活動の変更例としてオンラインを駆使した価値の提供が多いが、その結果として良い面があることを多くの組織が認識している。
- 変化に率先して対応し新たな経験をすることで、新たに発見した新しい行動様式の良い面を生かすための工夫を試みており、変化に強い組織文化を有していることが読み取れる。

### 価値提供の見直しや再確認による 事業・活動の変更例

- ・イベント・ワークショップ・授業等のオンライン開催、同時配信、少人数開催
- ・オンラインでの活動の支援
- ・オンラインでの対応が難しい高齢者や要支援者に対する電話での自動情報提供等の多様なコミュニケーションツールの開発・提供
- ・ICTの活用等に関する検討
- ・海外に対して、自分たちが訪問して事業を実施、現地での活動を支援するのではなく、トレーナーのトレーニング等を遠隔で行うことで、現地のパートナーを支援し、現地のパートナーが自ら事業を実施できるようにした
- ・顧客によるまとめ買い等の需要拡大に合わせた品揃えの改善
- ・既存の製品に加えて、感染予防対策ができる製品を提供

### 事業・活動の変更によって生じた変化の例

- ・オンラインで活動を行うことで、声や存在感の大きい人に押されることなく、一人一人の意見を主張しやすくなり、またそういった意見を受け止めやすくなった
- ・オンラインによって今まで以上に広域からの参加、より多くの人の参加が可能となった
- ・オンラインによって移動時間の短縮等により、時間の有効活用・働き方改革の促進が可能となった
- ・オンラインによってイベント・研修等に対して、物理的・時間的な理由で参加できなかった人が参加しやすくなり、間口が広がった

## Q9 : SDGsを推進していることで、新型コロナウイルス感染拡大下において役に立ったことがあれば教えてください。①

- 新型コロナウイルス感染拡大下において、SDGsで活動してきたことが役立っただけでなく、更にSDGsの推進体制が強化されるという状況が生じている。

SDGsで活動してきたことが  
コロナ禍において役立った

コロナ禍において、更に  
SDGsの推進体制が強化された

SDGsに取り  
組むことによ  
って変化への  
対応力が高ま  
った

SDGsネット  
ワークが有効  
に機能した

事業機会が  
創造できた

SDGsに取り  
組む意義へ  
の理解が深  
まった

コロナ対策に  
よって組織の  
成長や顧客・  
組織内での  
絆が強化に  
なった

## Q9 : SDGsを推進していることで、新型コロナウイルス感染拡大下において役に立ったことがあれば教えてください。②

SDGsに取り組んでいたことで役に立ったこと	取り組み概要
SDGsに取り組むことによって変化への対応力が高まった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>長期的な視点</b>を持つことで、短期的な変化に対しても落ち着いて<b>変化を俯瞰してみる</b>ことが出来、行動を迅速に、前向きに変更することが出来た</li> <li>・自組織内において<b>課題解決に対する積極的な姿勢が根付いていた</b>ため、新型コロナウイルス感染拡大によって起きた<b>急激な変化に対してもしっかりと対応</b>することが出来た。</li> <li>・コロナ禍においても、常に<b>他者や地域に対して貢献する意識</b>が根付いていた。</li> <li>・社会課題に取り組んでいる企業が<b>有事の際にも立ち直りやすい</b>、大きな変化を機会ととらえることが出来ると考えられる。</li> <li>・バックキャスト思考で人材育成を推進することで、コロナ禍において<b>冷静に自分たちの活動を俯瞰</b>し、行うべきことを見極めることが出来た。</li> <li>・SDGsに取り組むことで、<b>自組織内の様々な人々の立場を尊重したうえで、事業の継続性を確保</b>することを迅速に行えた。</li> <li>・SDGsによって培った「<b>自分事として捉え、自分なりに考え、行動する力</b>」がコロナ禍においてもこの難局を乗り越えていくために役立ち、具体的な成果を上げるに至った</li> </ul>
SDGsネットワークが有効に機能した	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>SDGsの推進のためのネットワーク</b>があったことによって、<b>活動の持続や新しい価値の提供が可能</b>になった</li> <li>・SDGsのセミナー等<b>を継続して行う</b>ことで、<b>ネットワーク内でのコロナ禍での結束が強まった</b></li> <li>・普段からSDGsの取り組みを通じて多くのステークホルダーと<b>良好な関係を築いていた</b>ため、<b>風評被害が起こることなく、活動を継続</b>することが出来た。</li> <li>・SDGsの活動を積極的に行うことで、<b>自然と情報が集まりやすい状況</b>が出来ていることから、必要とされている支援ニーズの整理や検討を迅速に行うことが出来た。</li> </ul>
事業機会が創造できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提供している製品をSDGsの様々な目標にどのように貢献するかを整理し情報発信していたことで、<b>パンデミック・防災対策という観点から新たなパートナーシップや事業創出の機会</b>を得ることが出来た。</li> <li>・コロナにより、海外への修学旅行を見合わせる学校が増え、その影響からSDGsを修学旅行のカリキュラムに入れようとする動きが盛んとなっている。こうした動きに<b>適応することで、観光に関連する産業の活性化を実現するとともに、子どもたちにSDGsに関する学びの機会を得てもらう</b>ことが可能となった。</li> <li>・SDGsに真摯に向き合いゴール間の関係にも目を向けていたことで、従来の取り組みに関連していた個別のゴールにとらわれることなく、<b>コロナによる変化に応じて複数のゴールに同時に取り組む</b>ことが出来た。</li> <li>・コロナ対策に関連する<b>事業の成長・利益増加が実現</b>した。</li> </ul>

## Q9 : SDGsを推進していることで、新型コロナウイルス感染拡大下において役に立ったことがあれば教えてください。③

コロナ禍において強化されたこと	取り組み概要
SDGsに取り組む意義への理解が深まった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策に関する多くの情報をSDGsの視点から取りまとめることで、<b>複数の組織間での情報共有を円滑に行うことが出来た。</b></li> <li>・(地球の一部に人間社会があることを実感することが出来、テクノロジーの進歩に期待を持つことが出来た。) <b>今起こっていることへの理解が進んだ</b></li> </ul>
コロナ対策によって組織の成長や顧客・組織内での絆が強化になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前例主義や積み上げ主義から脱却し、あるべき目標から考えるバックキャスト思考や、まず行動しそれから修正していくといった手法に挑戦する機運が高まった。</li> <li>・コロナの影響でSDGs達成に向けた課題が明確となり、活動の意義を改めて確認することが出来た。また、新たに活動を支援してくれる人との接点が生まれた。</li> <li>・地域への貢献や課題への対応を行ってきたことで、買い支えや支援を受けることが出来、組織内の絆も強固なものとなった。</li> </ul>

## Q10：新型コロナウイルス感染拡大によって、今後より注力しなくてはならなくなったSDGsに関連する取り組みがあれば教えてください。

- アンケート結果によると、SDGsのゴール全てにおいて、新型コロナウイルス感染拡大によって重視されるようになった要因が存在する。
- より重視されるようになった個別ゴールが存在するとともに、複数のゴールが関連しあってより重視されるようになったゴール、更には誰一人取り残さないというSDGsの根本的な理念、ニューノーマルという観点から重視されるようになった事柄も抽出された。

より重視されるようになった個別ゴール

複数のゴールが関連し  
あってより重視される  
ようになったゴール

誰一人取り残さないというSDGsの根本的な理念、ニューノーマルという観点から重視されるようになった事柄

# Q10①：新型コロナウイルス感染拡大は、様々な個別ゴールに直接関連する課題を新たに創出していることが分かる。

## 個別ゴールに直接関連する課題



・グローバルな感染症対策とその教育



・学びの主体者としての児童生徒を育てていくこと  
 ・GIGAスクールを中心とした小中高におけるオンライン教育や外部人材活用の仕組み導入を通じたゴール4.1、4.4、4.7、4.aの達成  
 ・GIGAスクール構想の活用による地域内のあらゆる面でのICT化の促進



・グローバルな衛生課題の解決



・若者に対するサポート、ジェンダーと性についてのサポート



・ターゲット8.5として、経済の悪化に伴い弱い立場の方の仕事（活躍の場）を喪失しないこと



・国間の行き来が不自由になったという観点から、ゴール9.1(全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。)



・廃棄を減らし、必要な人たちに必要な分だけ食料がいきわたる仕組みを作ること



・気候危機への対応が急務

## Q10②：新型コロナウイルス感染拡大によって取り組まなくてはいけなくなった課題の中には、複数のゴールに跨る課題も多く存在する

### 複数のゴールに跨る課題

注力すべき取り組み	ゴール	概要
食料・エネルギーの安全保障	2/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で輸出入依存が進んだことで、食料やエネルギーを自国内での確保が重要になった</li> </ul>
「働くことの見直し」と「差別や偏見の是正」を通じた「平和」の構築	8/10/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きがいと共に経済成長を推進していく上で、会社の在り方の見直しが必要になるとともに、コロナ禍における差別や偏見というものも明らかになったことから、より一層「人権」と「平和」に関する取り組みに力を入れていかなければならない</li> </ul>
多様性の尊重	5/8/9/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>「多様性の尊重」という観点から、SDGs目標5, 8, 9, 10がより重要となった</li> </ul>
プラネタリーヘルス	3/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>未知のウイルスへの対策として、気候危機に対する行動は益々注力する必要がある</li> <li>気温上昇による生態系の変化による新たな病原菌の出現といった背景からより環境に注力すべき</li> </ul>
医療・経済の両立	1/3/4/11/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・経済の両面から人々のいのちを守るため、感染拡大の抑制と社会経済活動の維持との両立を図る 検査・医療提供体制の確保や充実、クラスター対策強化（ゴール3）コロナ禍の暮らしを支えるセーフティネットを充実させる（ゴール1、4、11、12など）</li> </ul>
格差の是正	1/3/5/11/12/13/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスにより拡大した格差の是正について、様々な側面から貢献することが必要</li> </ul>
女性・医療従事者・途上国貧困地域等の人々を取り残さないための遠隔連携	3/5/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健（Goal3）、ジェンダー（Goal5）、パートナーシップ（Goal17）がより重要となった</li> </ul>
一次産業の支援	2/14/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な購入によって地元、日本の一次産業を支えていくことが必要である</li> </ul>

## Q10③：新型コロナウイルス感染拡大によって取り残されてしまっている人々の課題解決、ニューノーマルへの移行に向けた課題もSDGsに大きく関係している

個別ゴールには紐づけないがSDGs全体に関連する課題

### 誰一人取り残さないという視点からの課題

- ・ ネット環境にない方（御年長者や貧困世帯）への情報発信や参加機会の喪失
- ・ 取り残された人々がさらに取り残されてしまう現状となっている
- ・ コロナ禍による影響を踏まえた支援

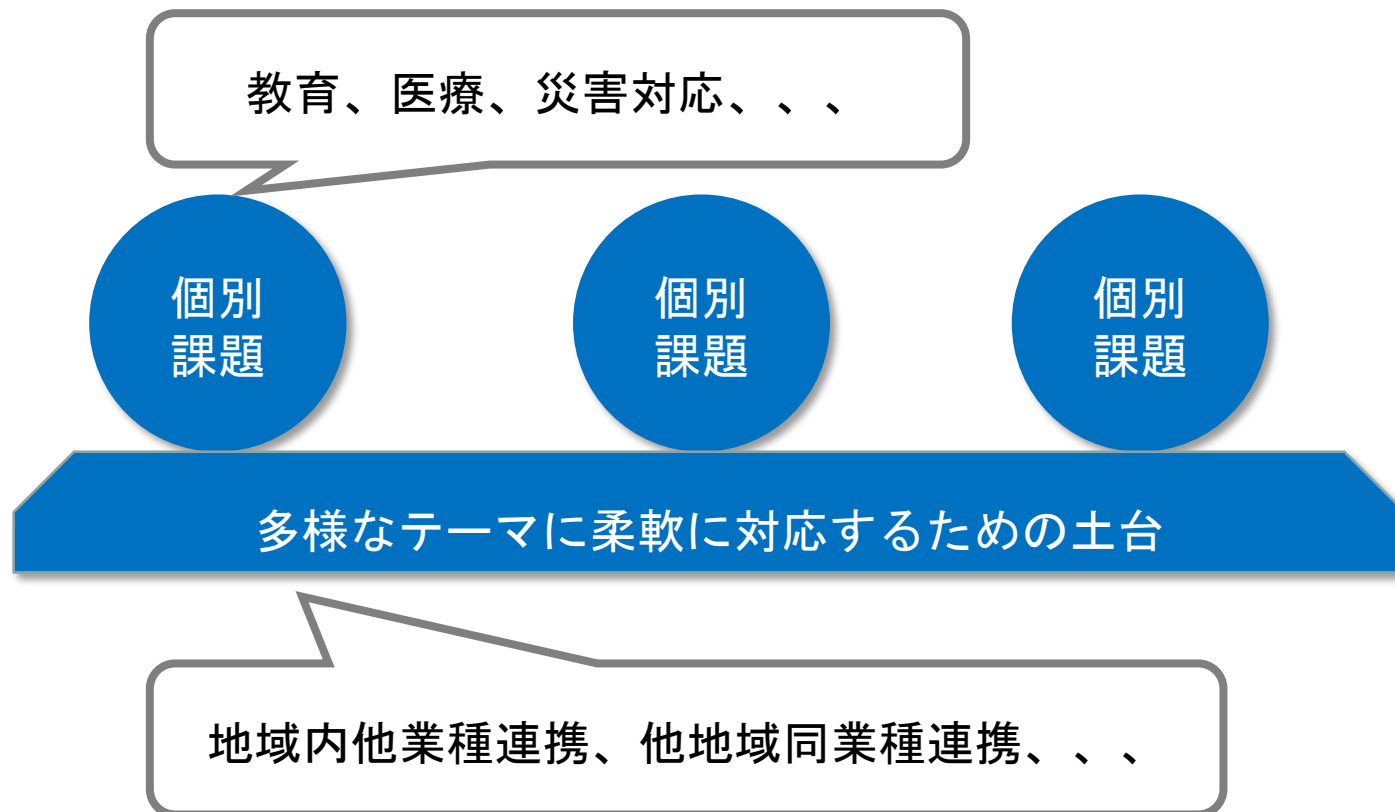
### ニューノーマルへの移行という視点からの課題

- ・ 非動物食・昆虫食の推進
- ・ オンラインチャネルでの情報発信
- ・ 場所に捉われない勤務（テレワーク）を前提とした勤務体制・評価／賃金制度の再定義／見直し
- ・ 地方や海外コミュニティとの繋がりをより深くすることによってそこから生まれる新しいサービスや取り組みをブラッシュアップ



## Q11：新型コロナウイルス感染拡大収束までに、他組織とのパートナーシップを強く求めるSDGsに関連する取組があれば教えてください。

- 新型コロナウイルス感染拡大収束までに必要となるパートナーシップとしては、個別具体的な課題に対する連携と、多様なテーマに柔軟に対応するための土台を強化するための連携の双方が求められている。



**Q11①**：個別具体的な課題としては、教育・医療・災害対応等の迅速な対応が求められる課題と、ニューノーマルの実現に向けたリサイクル推進・ゼロカーボンシティ等、社会システムの再構築を促すための課題の両方があげられる

## 個別具体的な課題に対する連携

課題の種類	課題の概要もしくは必要な連携
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ G I G A スクールの仕組みを活用した小中高におけるオンライン教育の充実と、国内の様々な地域間における学生・生徒・児童のネットワーク化を促す取り組み</li> <li>・ 高校等のSDGsに関する修学旅行の受け入れを行うための地域内での連携</li> </ul>
若者への医療提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体やNPOと協働によるオンラインユースクリニックの普及</li> </ul>
災害対応	地震や豪雨災害への対応における行政やNPO・NGO、ボランティア組織との連携
途上国支援（現地遠隔支援、緊急支援）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 途上国の緊急支援における現地のNGO等と継続的な連携</li> <li>・ 途上国現地支援団体とより密接にコミュニケーションや連携をとることによる遠隔での活動推進</li> </ul>
リサイクル推進	プラスチックをリサイクルして生産する商品の開発等についての関連組織との連携
ゼロカーボンシティ	ゼロカーボンシティの実現を含むSDGs推進に向けたパートナーシップ
業界横断の海外市場むけECサイト	バイヤーへの自社製品販売を促すECサイトに関する業界一体での構築
日本の伝統文化とSDGsの紐づけ	SDGsと日本の伝統文化のつながりの強化

## Q11②：多様なテーマに柔軟に対応するために、業界内での連携にとどまらず、地域やセクターを超えた連携が求められている。

### 多様なテーマに柔軟に対応するための連携

連携の種類	連携の概要
<b>情報連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域FM放送でのSDGs番組による情報発信を強化するための拡散したいSDGsの取り組みを有する団体・組織との連携</li> <li>・ あらゆる団体や企業、個人と協力することで、オンラインによる情報提供、情報発信事業を強化</li> </ul>
<b>他業種地域連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治体、大学生、学校関係者とのネットワークの構築と連携強化</li> <li>・ 2030年の地域の理想の姿を目指した市民・NPO・企業との協働での福祉・農業に関する連携事業の推進</li> </ul>
<b>同業界での連携</b>	他地域の同業他社との連携による課題解決の推進
<b>SDGsネットワークの強化</b>	SDGs推進のための協議会の設立
<b>途上国での国際機関との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの状況以前から続けて来ている国際機関との連携強化</li> <li>・ 国際NGOや国連機関との連携</li> </ul>

## Q12：新型コロナウイルス感染拡大収束後の社会において、他組織とのパートナーシップを強く求めるSDGsに関連する取組があれば教えてください。

- 新型コロナウイルス感染拡大収束後においては、コロナ以前から実施をしている取り組みの加速に加えて、グリーンリカバリーといった世界全体での動きに合わせた取り組み、グリーンリカバリーにおける二本柱となるサーキュラーエコノミー、DXに関する取り組みがあげられている。

連携テーマ	求められる連携の概要
<b>コロナ以前から実施をしているSDGs推進のための取り組み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsに関する自組織と同じ取り組みを全国に増やしていくためのネットワークの拡大</li> <li>・ SDGs/ESDの充実のための地域内外の関係機関、団体との更なる連携拡大</li> <li>・ 同業他社との協働機会の模索</li> <li>・ コロナによって現在停滞している取り組みの確実な実施</li> <li>・ 国際ネットワークの活用、国際機関との連携、その他連携強化による課題ごとの取り組みの深化</li> </ul>
<b>グリーンリカバリー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グリーンリカバリー、サステナブルリカバリー等を通じて実践組織を支援するための連携</li> <li>・ 地域内の一次産業、商店街店舗等を含む一般企業、教育業界と連携をとり、SDGsの達成に向けて取り組みながら、経済も活性化するようなネットワークや仕組みの構築</li> </ul>
<b>サーキュラーエコノミー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 循環経済ビジョン、サーキュラーエコノミーを中心としたビジネスの構築</li> <li>・ 静脈産業として、動脈産業との共創を通じた循環社会の構築</li> </ul>
<b>DX</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「テクノロジーと福祉」の連携により、弱い立場の方や地域に積極的にテクノロジーを取り入れること</li> <li>・ DXの推進による異文化連携イベントのを多数開催</li> </ul>